

メバチ 大西洋

Bigeye tuna *Thunnus obesus*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長約 2.0 m・約 200 kg
- 寿命：17 歳以上
- 性成熟年齢：3 歳で始まり、4 歳以上で全個体が性成熟に達する
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24°C以上の海域
- 索餌期・索餌場：特定の海域・時期の報告はない
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類、他のマグロ類よりハダカイワシ・ムネエソ等の中深層性魚類が多い
- 捕食者：大型のマグロ・カジキ類、サメ類、歯鯨類

利用・用途

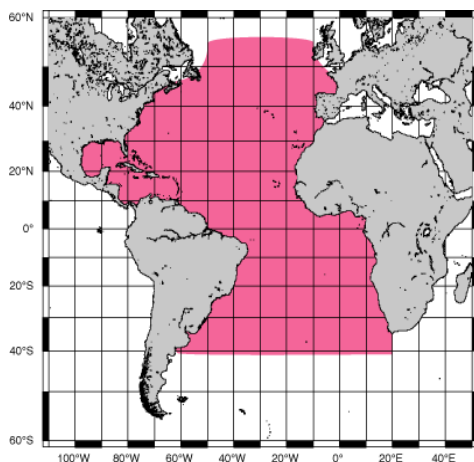
刺身、すし、缶詰等に利用されている。

漁業の特徴

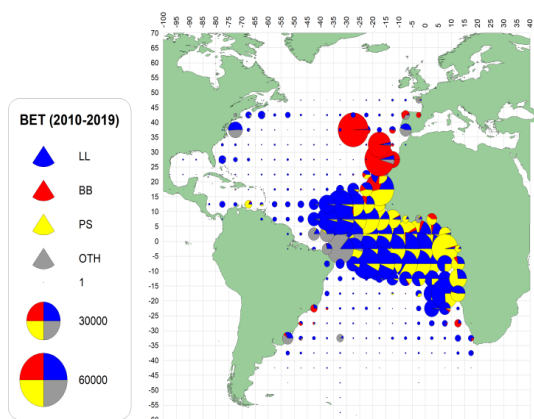
本種は主にはえ縄、竿釣り、まき網によって漁獲されてきた。主として成魚を漁獲するはえ縄が漁獲の大部分を占めてきたが、大西洋は他の大洋と異なり、従来からまき網や竿釣りによる漁獲が比較的多い。まき網が人工浮き魚礁 (FAD) 操業を開始した 1991 年以降、小型魚漁獲が増加した。

漁獲の動向

総漁獲量は 1994 年に過去最高の 13 万トンに達したが、その後徐々に減少して、2005 年以降は 6 万～8 万トンで推移し、2022 年の総漁獲量は 6.3 万トン (暫定値) で、総漁獲可能量 (TAC) (6.2 万トン) を上回った。2022 年現在、はえ縄の漁獲は全体の約半分 (52%) であり、まき網の漁獲 (29%) は 2005 年以前に比べて比率が高い。メバチの平均体重は、はえ縄で 45～60 kg、竿釣りで 20～30 kg、まき網で 3～4 kg である。



大西洋におけるメバチの分布



主要なまぐろ漁業による大西洋におけるメバチの漁獲分布(2010～2019年)

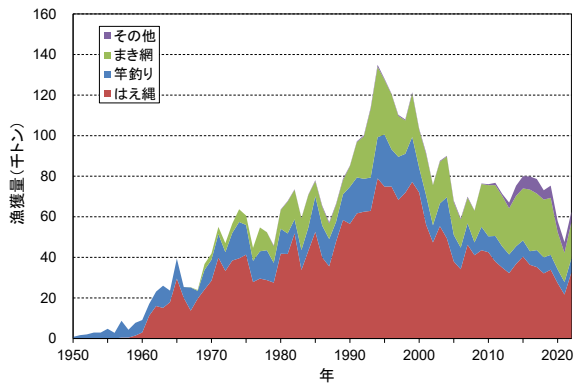
青：はえ縄、赤：竿釣り、黄：まき網、灰：その他。凡例の丸は上から 30,000 トン、60,000 トン。

資源状態

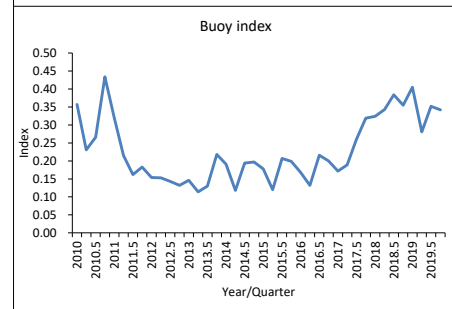
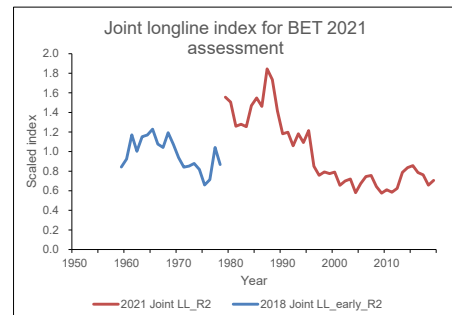
ICCAT の科学委員会は、2021 年に資源評価を実施し、統合モデル (SS3) による結果を管理勧告に用いた。結果として、最大持続生産量 (MSY) : 7.2 万~10.6 万トン (中央値 8.7 万トン)、MSY を実現する漁獲死亡係数 (F) 及び産卵親魚量 (SSB) に対する比は、各々 $F/F_{MSY} : 0.63 \sim 1.35$ (中央値 1.00)、 $SSB/SSB_{MSY} : 0.71 \sim 1.37$ (中央値 0.94) と推定され、資源状態は乱獲状態であるが過剰漁獲ではないとされた。2021 年時点の TAC (6.15 万トン) を維持した場合、2034 年に資源が乱獲状態及び過剰漁獲でなくなる確率はおよそ 97% とされた。

管理方策

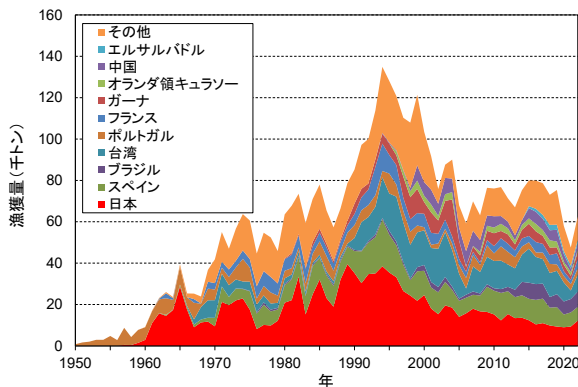
2015 年の ICCAT 年次会合において資源管理措置を決定した (2016 年一部改訂)。2019 年の ICCAT 年次会合において、熱帯まぐろ保存管理措置が改定され、新たな TAC は 2020 年に 62,500 トン、2021 年に 61,500 トンとされた。また、2020 年には 1~2 月の 2 か月間、2021 年には 1~3 月の 3 か月間、大西洋全体において FAD 操業の禁止を決定した。FAD 数は、1 隻当たり一度に 350 基 (2020 年) 及び 300 基 (2021 年) までとした。2021 年の ICCAT 年次会合において熱帯まぐろ保存管理措置が一部改定され、2022 年は、TAC は 62,000 トン、FAD 禁漁 (大西洋全体) は 1 月 1 日~3 月 13 日の 72 日間に決定された (それ以外は同じ措置を 2022 年も継続)。2022 年の ICCAT 年次会合において、2023 年も 2022 年と同じ FAD 禁漁、FAD 数 (1 隻当たり一度に 300 基)、同じ TAC とすることが決定され、2023 年の ICCAT 年次会合において、2024 年も 2023 年に引き続き 2022 年の管理措置を継続することが決定された。漁獲努力量制限として、主要漁業国のはえ縄及びまき網における全長 20 m 以上の漁船における年間操業隻数が制限されている。統計証明制度 (輸入には漁業国の証明書が必要) が 2002 年 4 月から開始されている。



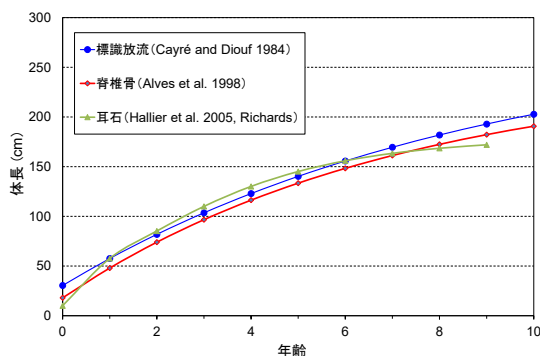
大西洋におけるメバチの漁法別漁獲量 (1950~2022 年)



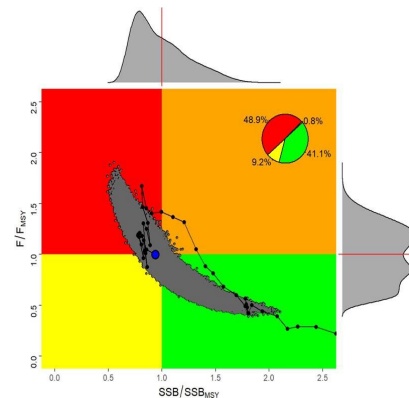
資源評価ベースモデルに用いた資源量指数 (上: はえ縄統合 CPUE、1959~2019 年、下: FAD 漁業に用いるエコサウンダーブイ (魚探が付いていてその情報を無線で送信し、離れた場所から蟻集魚群量をモニターできるブイ) のデータを利用した小型魚の資源量指数 (2010 年第 1 四半期~2019 年第 4 四半期))



大西洋におけるメバチの国・地域別漁獲量 (1950~2022 年)



標識放流、脊椎骨及び耳石から推定されたメバチの成長曲線



SS3 の 27 シナリオで推定された資源状態の推移
青丸は最新年 (2019 年) の資源状態。

メバチ（大西洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	4.8 万～7.5 万トン 最近 (2022) 年：6.3 万トン 平均：6.3 万トン (2018～2022 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	0.9 万～1.2 万トン 最近 (2022) 年：1.2 万トン 平均：1.0 万トン (2018～2022 年)
資源評価の方法	統合モデル (SS3) による解析： はえ縄漁業 CPUE、及び漁獲動向等により水準と動向を評価
資源の状態 (資源評価結果)	F / F _{MSY} = 0.63～1.35 (中央値 1.00) SSB / SSB _{MSY} = 0.71～1.37 (中央値 0.94) 2019 年の資源状態は、過剰漁獲ではないが、乱獲状態である
管理目標	MSY：7.2 万～10.6 万トン (中央値 8.7 万トン) (2022 年の漁獲量：6.3 万トン)
管理措置	<p>○OTAC 2019 年：6.5 万トン 2020 年：6.25 万トン 2021 年：6.15 万トン 2022～2024 年：6.2 万トン</p> <p>○主要国の漁獲枠、漁船隻数枠の設定</p> <p>○FAD 操業禁漁期設定 ・ギニア湾 (南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度、アフリカ大陸で囲まれた海域) における 1 月 1 日～2 月 28 日 (2016～2019 年) ・大西洋全体 1 月 1 日～2 月 29 日の 2 か月 (2020 年)、 1 月 1 日～3 月 31 日の 3 か月 (2021 年) 1 月 1 日～3 月 13 日*の 72 日間 (2022～2024 年) ※2024 年は 3 月 12 日まで</p> <p>○FAD 数制限</p> <p>○統計証明制度</p> <p>○オブザーバー乗船 (まき網、竿釣り)</p>
管理機関・関係機関	ICCAT
最新の資源評価年	2021 年
次回の資源評価年	2025 年 (予定)